

1 未定稿 平成 29 年 3 月 8 日第 1 回定例会表一般質問 ちよだの声 小林たかや

平成 29 年第 1 回定例会に当たり、一般質問をいたします。

都民が 8 割支持している小池都知事の全面的な支援を受けた石川雅己氏が区長選を制し、石川区政 5 期目がスタートしました。わが会派ちよだの声では、4 期までの石川流の行政運営はダブルスタンダードで二重基準をあやつり、どちら側にもいい顔をして押し切り自分の思った方に舵を切る区長の手法を指摘してきました。

しかし、石川区長は、区長選挙後の当選記者会見で「今回の勝利は小池知事の支援のたまもの。ともに次の政治ステージに向け、知事と力を尽くしていきたい」と語っていますが、これはどう言う意味なのか。

小池都知事のように誰の目にも見える形で情報公開し、透明性を重視して行政運営をなさるおつもりなのか今後の姿勢をお伺いし質問のスタートとさせていただきます。

始めに、「千代田区人口ビジョンについて」

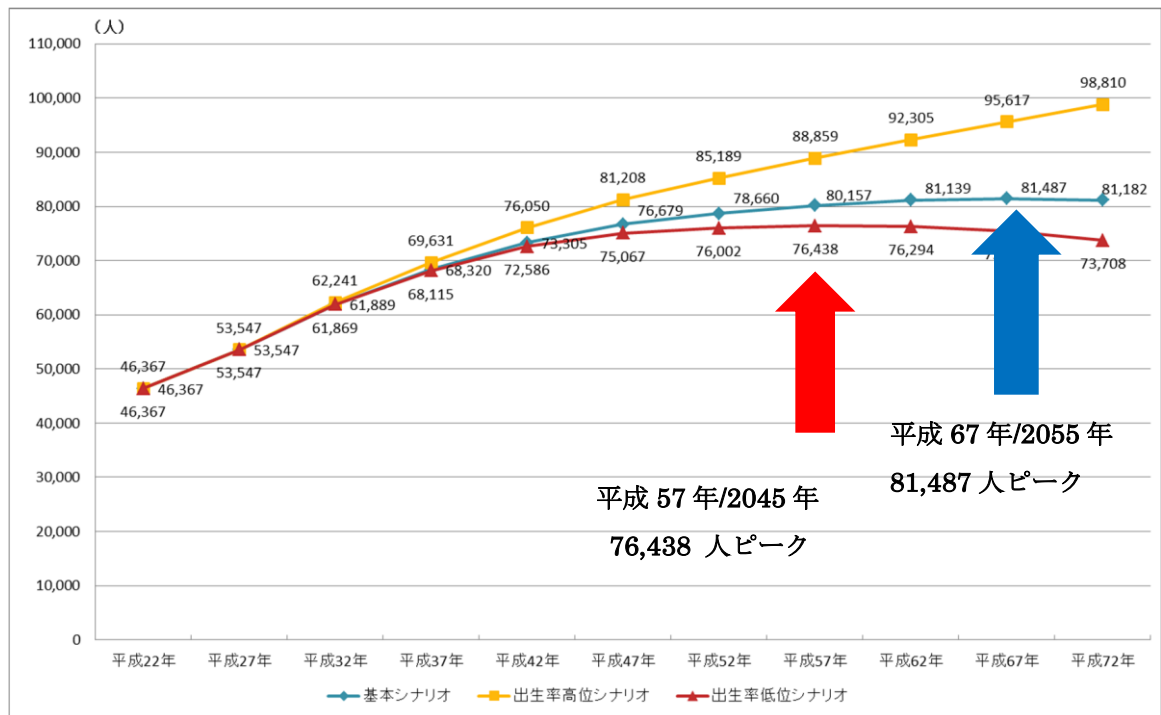
お伺いいたします。

平成 28 年 3 月に発表された千代田区人口ビジョンによりますと設定シナリオごとに将来人口を推計した結果 3 つのシナリオ、高位、基本、低位すべてにおいて、平成 50 年代頃まで約 30 年間人口は増加基調で推

移する。基本シナリオでは平成 67 年(2055 年)38 年間増え続け 81,487 人でピークを迎え、その後減少に転じます。

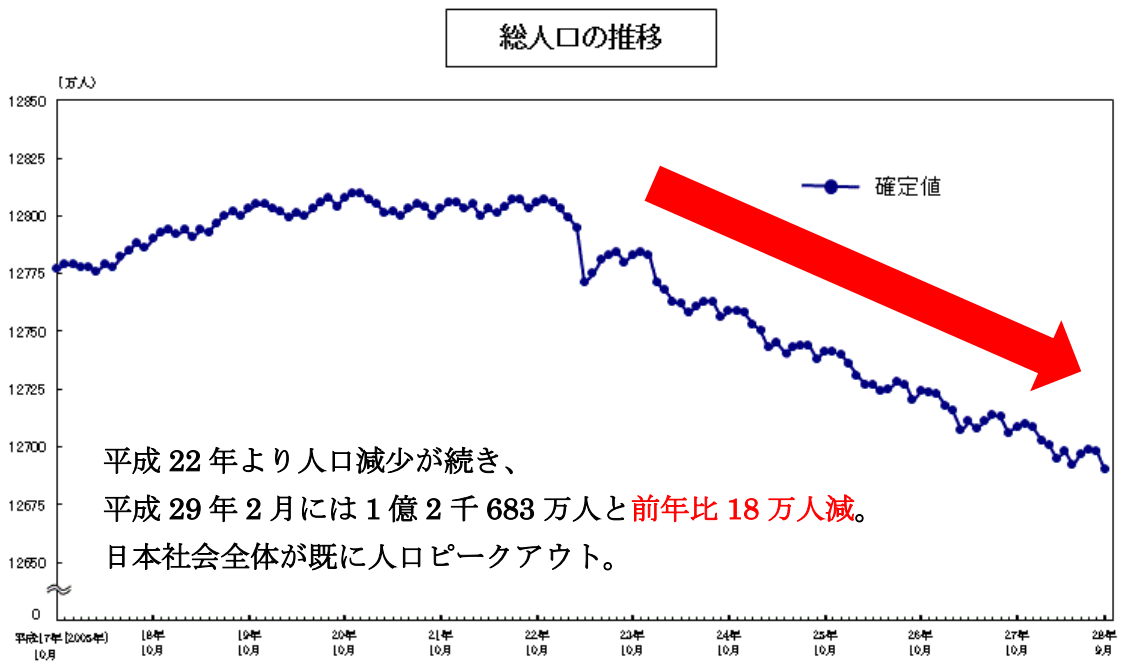
低位シナリオでも、平成 57 年(2045 年)28 年間増え続け 76,438 人でピークを迎えております。(スクリーン1)

千代田区人口ビジョン平成 28 年 3 月(2016 年)



しかし、総務省統計局の平成 29 年 2 月人口推計によりますと 1 億 2,683 万人と前年比 18 万人の減少で日本社会全体が既にピークアウトしている現状です。(スクリーン 2)

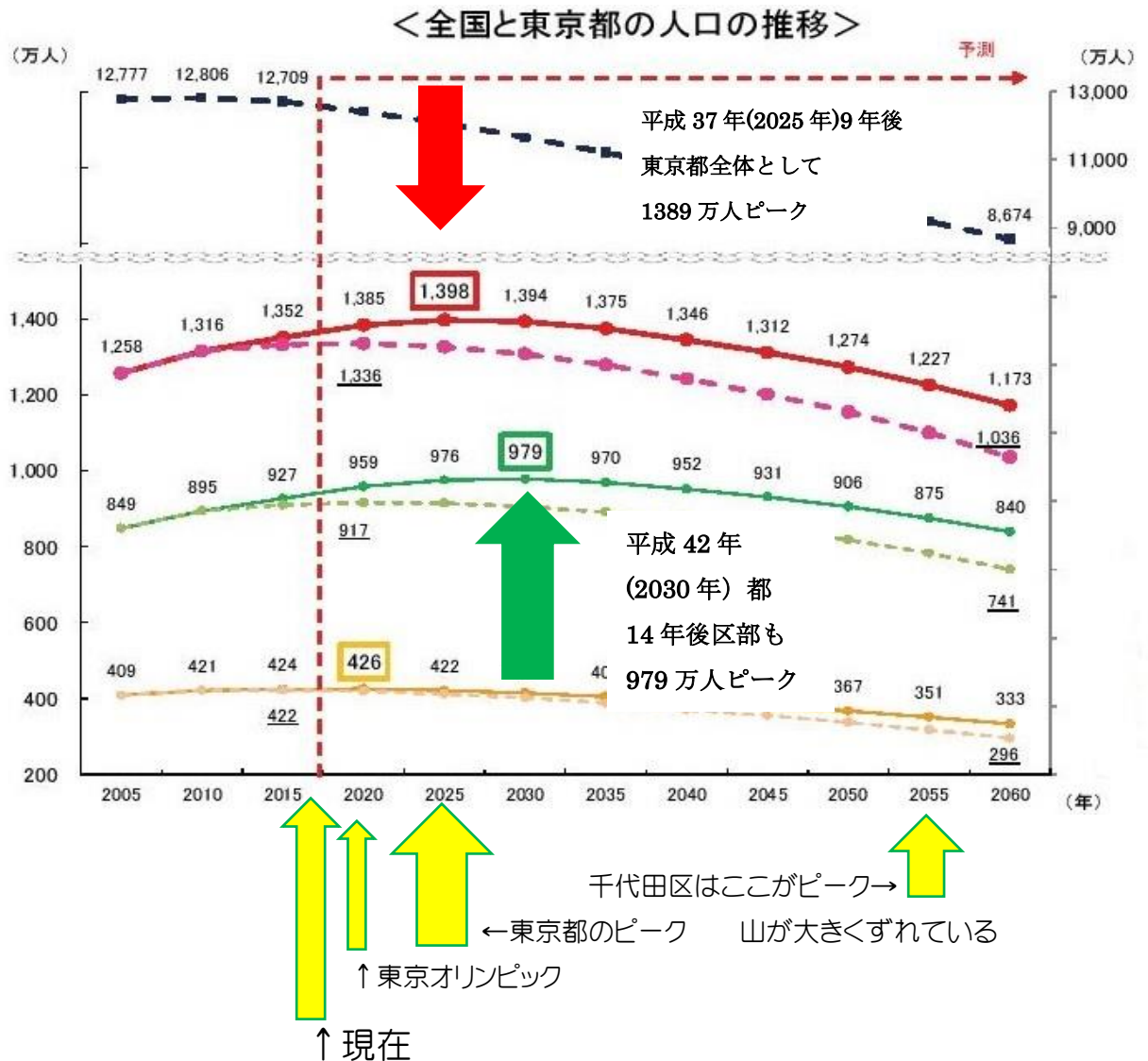
総務省統計局平成 28 年 9 月(2016 年)



また、東京都のホームページ、都民ファーストでつくる「新しい東京」の人口推計においても平成 37 年(2025 年 9 年後)に 1,398 万人とピークを迎え、区部も、平成 42 年(2030 年)14 年後にピークアウトするという推計です。千代田区は 2055 年ピークで 25 年も都とズレてる。

(スクリーン 3)

2060 年までの東京の人口推計
東京都政策企画局が平成 27 年国勢調査を基に作成したデータより抜粋



千代田区まち・ひと・しごと創生総合戦略概要でも、将来の人口推計で平成 67 年(2055 年)38 年後にピーク(約 8.1 万人)を迎えると示しています。(スクリーン 4・5)

千代田区まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案) ～概要～

政策経営部資料 5-1
平成 27 年 11 月 30 日

位置づけ

「まち・ひと・しごと創生法」第 10 条の規定に基づく、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略

対象期間

平成 27 (2015) 年度から平成 31 (2019) 年度までの 5 年間
(国の総合戦略及び「ちよだみらいプロジェクト」(平成 27 年 3 月に策定した区の基本計画)との整合を図る)

地方創生に対する千代田区の考え方

<国の考え方(視点)>

- 人口減少/少子高齢化に歯止め
- 「東京一極集中」の是正
- それぞれの地域で住みよい環境を確保
- 将来にわたって活力ある日本社会を維持

<都の考え方(視点)>

- 「東京と地方」の共存共栄
- 首都・国際都市としてさらに発展し、日本経済を活性化
- 少子高齢・人口減少社会に対する東京の挑戦
- ⇒「真の地方創生」の実現

近年、区の人口は増加しており、国が進める地方創生の背景とは異なる点はあるが、千代田区も「地方」の一つであり、千代田区を含めた地方全体の活力を高めることが重要
⇒国・都の考え方(視点)を千代田区の現状に照らし合わせた上で、区として必要な取組みを進めていく

策定の考え方

- 「ちよだみらいプロジェクト」に掲げた施策を着実かつ効果的に実施する観点から策定
- 子育て支援、地域コミュニティ、地方との連携など、「ちよだみらいプロジェクト」の中で、特に「まち・ひと・しごと創生」に関連する施策に焦点を当て、施策の掘り下げや体系化を行う

千代田区人口ビジョン

人口動向(近年の特徴)

- 出生数は増加傾向にあり、平成 26 年の合計特殊出生率は 1.34 と東京都や特別区平均を上回っている
- 平成 12 年から転入超過が続いており、20～40 代の転入超過が大きい

将来人口の推計(平成 72(2060)年まで)

- 人口は増加を続け、平成 67(2055)年にピーク(約 8.1 万人)を迎え、その後減少に転じると推計
- 年少人口は平成 42(2030)年、生産年齢人口は平成 47(2035)年にピークを迎え、減少に転じる
- 老年人口は推計期間中、増え続ける

人口の将来展望・分析

- 出生率や社会移動に係る目標値は設定しない(→出産・子育てや人の移動は個人の選択によるもので、その意思に反して政策的に誘導することは困難)
- 人口動向と将来人口の推計を分析し、地域の将来に与える影響や今後の取組みの方向性について提示

基本目標と施策

国や都の総合戦略を勘案し、区の背景・特徴を踏まえた基本目標を設定

目標 1 若い世代の出生・子育ての希望をかなえるとともに、安心して働けるようにする

<背景>

- 子育て世帯の流入が多く、子育て支援に対するニーズが高い
- 就業形態が多様化する中、仕事と家庭の両立が難しいという声が多い

目標 2 豊かな地域コミュニティが息づくまちづくりを進める

<背景>

- 区民の8割以上がマンション等集合住宅に居住しており、コミュニティや地域とのつながりが希薄になっている

目標 3 地方との連携を推進し、区の魅力と活力を高め発信する

<背景>

- 区は、エネルギーや食料など、経済・生活面において地方に支えられて成り立っており、地方との共存共栄が求められている
- 2020年のオリンピック・パラリンピック開催を踏まえ、国内外に開かれた魅力と活力あるまちをめざしている

<施策>

- 産もが等しく受け入れることができる保育環境を整える
- 安心して子育てができ、子どもたちがすくすくと育つ地域づくりを進める
- 働き方を改革し、男女ともに働きやすい職場をめざすとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現する
- 保育・福祉施設等の人材確保・定着を支援する

<施策>

- 地域力の向上を支援する
- 多様な人材が安心して居住できる住まい・住環境づくりに取り組む
- 高齢者が、地域で生きがいを持ち、活動的に生活できるよう支援する
- みんなで助け合う防災のまちづくりを進める

<施策>

- 千代田区の魅力を効果的に発信するとともに、地方との連携により、区内地域の活力を高める
- 中小企業や商工業の活性化を支援する
- 豊かな歴史や文化資源、文化芸術を気軽に楽しみ、親しめる環境づくりに取り組む

将来人口の推計(平成 72(2060)年まで)

- 人口は増加を続け、平成 67(2055)年にピーク(約 8.1 万人)を迎え、その後減少に転じると推計
- 年少人口は平成 42(2030)年、生産年齢人口は平成 47(2035)年にピークを迎え、減少に転じる
- 老年人口は推計期間中、増え続ける

5

ここで質問します。

1. 千代田区人口ビジョンは誰が何をもとに作成されたものですか。
2. 国や都の人口推計は国勢調査による人口を基に推計しておりますが区は、何を根拠にどういう風に推計しているのかお答えください。

3. どう考えてみても、国勢調査による人口を基に出生率^{しゅっしょうりつ}や定住率、空き家率等を考慮しないとなりません、それらの説明はありません。

千代田区の人口推計だけが右肩上がりになっている。

千代田区人口ビジョンの信憑性を示してください。

4. 都が区部の人口ピークアウトを平成 42 年(2030 年)14 年後としており、千代田区の人口ピークアウトは、平成 67 年(2055 年)38 年後で 24 年の開きがあり、ピークの山が大きくずれています。


都とすりあわせが必要ではないのでしょうか。お答えください。

	人口のピーク		ピーク開き
東京都	2030 年	平成 42 年	
千代田区	2055 年	平成 67 年	24 年後

石川区長は、千代田区の人口は増加し続けることが良いと思っている。


(スクリーン6・7) 石川区長選 討議用チラシ

討議用



挑戦(Challenge)、変革(Change)、創造(Creative)

石川区政16年 主な実績




区政健全化 No.1

- ・借金(区債) を約174億円から約12億円に削減
- ・貯蓄(基金残高) を528億円から1,038億円に倍増
- ・開かれた区政運営の推進
 - 「千代田区情報公開条例」策定 (H13年)
 - 全国初「千代田区行政財政改革に関する基本条例」策定 (H14年4月)
 - 企業会計的手法による財務書類の公表
 - 民営化等による職員の意識改革

路上禁煙の条例化 全国初

- ・治安・環境美化を目的とし、H14年4月過科を科す生活環境条例を制定
- ⇒ 初年度約5,500人に実際に過科を科した結果、意識改革により秋葉原中央通りの吸烟は3年で100分の1に、ゴミも激減し、治安・環境が大幅に向上




美しいまちづくり

住みたい街 No.1


- ・H22~27年の人口増加率国政調査比較*
- 全国1位** *住基人口の比較
- ・15年間の人口増加率49%
- H13~28年15年間 39,340人⇒58,576人

区内の鉄道駅・区有施設 バリアフリー化促進

- ・JR秋葉原駅・神田駅周辺環境整備、バリアフリー化
 - 国、都の助成を取り付け、大改修を実施
 - 秋葉原駅：東西自由通路を貫通
 - 神田駅：地域要望を受け、修景整備、地域貢献スペースを提供
- ・JR飯田橋駅ホーム整備推進
 - ホーム湾曲による列車とホーム間の隙間最大33センチの解消のため、ホームを移動
 - ⇒ 移動予定先に史跡があるため、文科省と5年にわたり交渉を続けて実現
- ・JR御茶ノ水駅、メトロ神保町駅のバリアフリー化推進



石川まさみ事務所
 千代田区神田神保町3-2-13
 電話 03-3288-5223
 FAX 03-5226-8818
<http://ishikawa-masami.jp/>
<https://www.facebook.com/ishikawa.masami21/>



住みたい街 No.1

- ・H22~27年の人口増加率国政調査比較*
- 全国1位** *住基人口の比較
- ・15年間の人口増加率49%
- H13~28年15年間 39,340人⇒58,576人

当然ながら、執行機関は、可能な限り人口増大することを前提に説明資料をつくり公共施設をつくらうとします。

しかし、東京都が 2025 年から人口が下降する。23 区も 2030 年から下降するという中で千代田区だけが 2055 年まで増大し続けるという想定は、もはやオルタナティブファクトと言うほかありません。

東京都の人口ピークがあと 10 年と言う一方で千代田区の人口はあと 40 年増え続けると石川区長は、希望しているのか。

根拠があって予測しているのか、お考えをお聞かせください。

千代田区だけが一人勝ちすると首都圏近郊だけでなく都内の人口や空き家率を急速に変化させる危険性があります。民間主体の再開発や大規模マンション新築が大きな要因ですが現状で起きている問題、不自然なほど新生児が増えて、それを追いかけて保育園や公共施設を新設することが本当に新旧区民の幸せにつながるのか一抹の疑問を区長は、お感じにならないのでしょうか。

また、千代田区に過剰に一極集中することでエネルギーを独占する等、他に迷惑をかけることは、首都東京の真ん中 千代田区として見識の問題です。

石川区長は、これら点についてどう考えるのですか。お答えください。

過大な想定人口で施策、とりわけ公共施設をつくった場合、ハコモノのスケール感や維持管理コストなどすべての見通しが狂ってしまいます。人口ビジョンを早急に見直し、あるべきモノサシに修正しスタートしなくてはなりません。それから慎重且つ説得力のある人口推計を行い区民に示すべきと考えますが、区のご所見をお伺いします。

次に

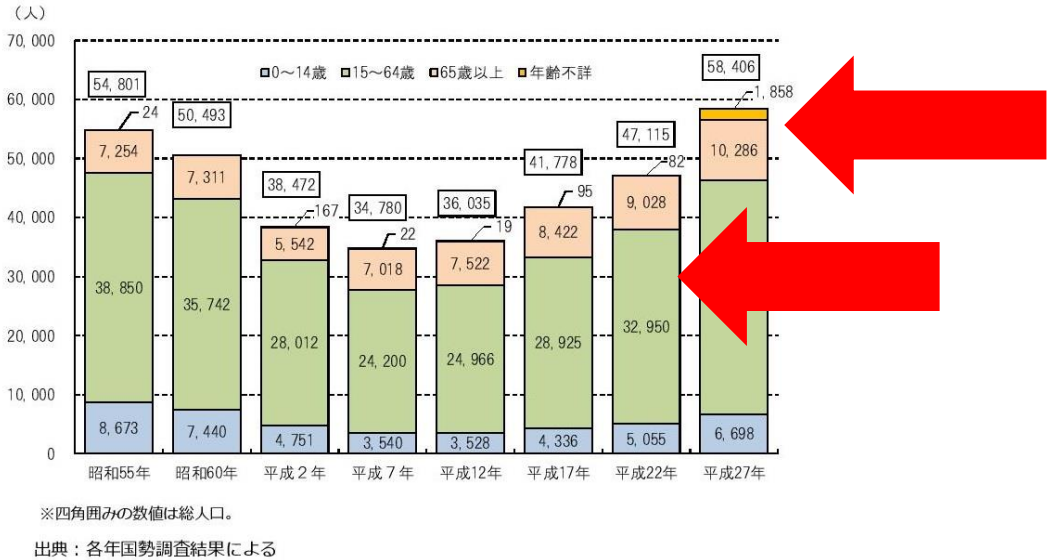
「公共施設等総合管理方針等について」お伺いいたします。

千代田区公共施設等総合管理方針【素案】が平成 29 年 1 月に発表されました。この中の将来の人口推計の数字が国勢調査数字と違っていています。平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査によりますと千代田区は、58,406 人であるのに対しこちらは、53,547 人で 4,859 人も少なくなっております。この素案の 5 ページ、図表 5 国勢調査でみた区の人口の推移と 8 ページの 図表 9 年齢区分別将来人口の推計結果でも、数字が違っていています。

(スクリーン8)

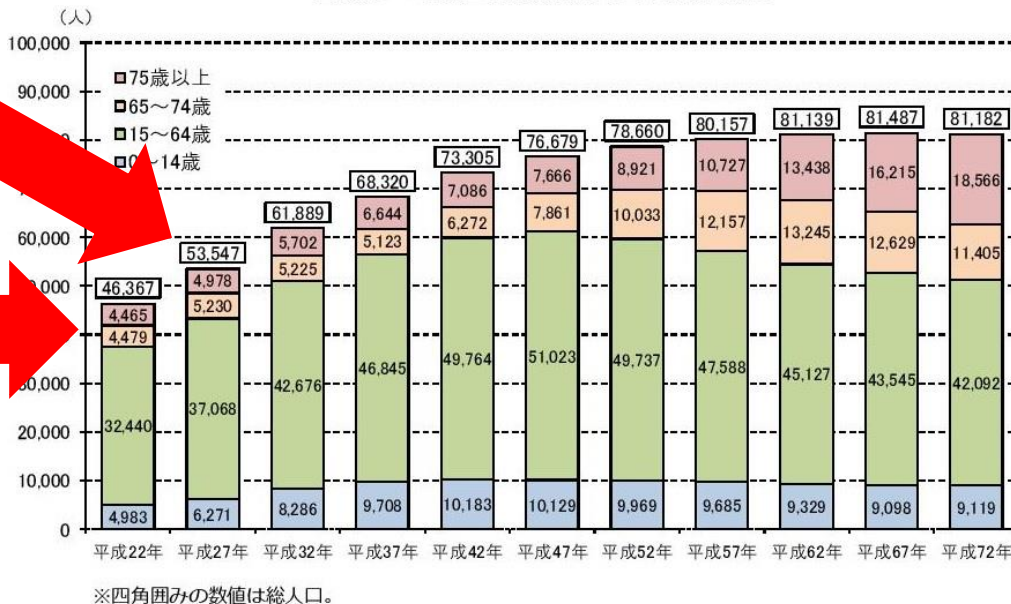
千代田区公共施設等総合管理方針【素案】平成 29 年 1 月

図表 5 国勢調査でみた区の人口の推移（昭和 55 年～平成 27 年）



平成 22 年・平成 27 年の国勢調査の数字 方針 5 ページより抜粋

図表 9 年齢区分別将来人口の推計結果



平成 22 年・平成 27 年の国勢調査の数字 方針 8 ページより抜粋

そもそも、(千代田区公共施設等総合)管理方針【素案】は、千代田区人口ビジョンの数字を使用していますから、人口ビジョン自体、平成 27 年の国勢調査数字がタイムラグであったとしても平成 22 年の国勢調査数字まで異なっているのは、何故でしょうか。お答えください。

東京都は、平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査数を反映して人口推計を行った結果、2025 年(平成 37 年)に人口のピークを見通しました。

ここで質問します。

千代田区人口ビジョンの不確かな部分を指摘しましたが、それを基に(公共施設等総合)管理方針【素案】を立てているのでは、将来見通しを誤るのではないのでしょうか。お答えください。

次に質問に入ります。

公共施設等総合管理方針【素案】は、公共施設の状況を総体でとらえています。千代田区の全施設の個別施設状況から方針素案に反映されているとは思えません。

信頼性の高い人口推計に基づき、一施設ごと全施設を洗い直さなければ、公共施設等総合管理方針が役に立ちません。

個別施設の正確なカルテがなければ、その施設をリフォームするのか

リニューアルすべきか

リノベーションしなくてはならないか

又は、新設すべきか

比較検討できません。

先ず始めにやるべきことは、一施設ごと82全施設をしかるべきセクションに集めて施設カルテを作成し管理することです。

具体的に施設カルテのサンプルを示します。

(スクリーン施設カルテ9～15)

小林ビル カルテ

建物所有者  不動産株式会社
施設管理者  総合管理株式会社
ビルディングドクター
一級建築士事務所  総合計画事務所

1. 建物概要・仕様

建物概要

建物の仕様

建築

構造

電気

機械

昇降機

2 新築工事の記録

竣工時保管書類

総合設計申請副本
確認申請副本
構造評定審査書類
建物竣工図
建物承認施工図・施工要領書
請負契約時書類・見積書内訳

引き渡し時に設計事務所か施工会社から受け取る

工事管理・監理報告書

竣工検査報告書
施工管理報告書
設計監理報告書
施工時各種検査報告書

その他各種引き渡し書類

引き渡し時に設計事務所か施工会社から受け取る

3 建物長期修繕計画書

建物長期修繕計画書 (完成時から 30 年)

引き渡し時に設計事務所か施工会社から受け取る

4 保証期間の記録

保証期間の瑕疵項目検査

1 年検査結果報告書

1 年瑕疵補修記録

2 年検査結果報告書

2 年瑕疵補修記録

5 年検査結果報告書

5 年瑕疵補修記録

10 年検査結果報告書

10 年瑕疵補修記録

5 建築物定期検査報告

(特殊) 建築物定期報告履歴

その都度記入

建築設備定期報告履歴

その都度記入

消防設備検査報告履歴

その都度記入

6 建物補修履歴

不具合等・故障補修履歴

その都度記入

長期修繕計画に伴う補修履歴

その都度記入

施設カルテを作成しますか。

今後どのように対応するつもりかお答えください。

また、「人口が減少する社会では過剰に造った公共施設の維持費が負担になります。建物の寿命は続くにも拘らず、人口減少社会の中で機能的な役割を失う可能性があり、やがて壊すこともできない廃墟となる可能性もあるのです。」

区のご見解をお願い致します。

最後に

(仮称)区営東松下町住宅が新築されましたが長期修繕計画は、誰がどこに整えていますか。

当然ライフサイクルコストは、算出されていると思いますが、誰がどのようにやっているのですかお答えください。

上記の点について、区長の明快な答弁を求め質問といたします。